

文化庁委託事業「2019 年度戦略的芸術文化創造推進事業」

新国立劇場 2018/2019 シーズンオペラ

オペラ夏の祭典 2019-20 Japan↔Tokyo↔World

ジャコモ・プッチーニ

トゥーランドット Turandot

2019 年 7 月 18 日(木)~22 日(月)

会場:新国立劇場オペラパレス 2019 年 3 月 2 日(土)発売



『トゥーランドット』 アルフォンソ・フロレスによるセットデザイン

2020 年に向け大型オペラを 2 年連続上演するくオペラ夏の祭典

オペラ夏の祭典 2019-20Japan↔Tokyo↔World は、新国立劇場と東京文化会館が 2020 年に向けて、日本を代表する劇場と連携して 2 年に渡り展開するオペラプロジェクトです。初年の 2019 年はプッチーニ未完の大作『トゥーランドット』、2020 年夏にはワーグナーの祝祭的作品『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を上演します。『トゥーランドット』は東京文化会館、新国立劇場で上演後、びわ湖ホール、札幌文化芸術劇場 hitaru でも上演。まさに日本全国を巻き込んだプロジェクトです。日本のオペラ界が総力を挙げ、日本全国へ、そして世界へ発信するオペラを創り上げます。

アートファン必見！伝説的前衛集団ラ・フーラ・デルス・バウスのオリエ演出の大スペクタクル

『トゥーランドット』演出に招くのは、スペインの前衛的パフォーマンス集団ラ・フーラ・デルス・バウスの芸術監督の一人アレックス・オリエ。オリエの名を一躍世界に知らしめた 1992 年のバルセロナ・オリンピックの開会式は、聖火を灯した弓を聖火台に向かって放ち見事に点火させたクライマックスの演出で、史上最も劇的なオリンピック開会式と語り継がれています。広さも高さも奥行きも自在に使うオリエならではの大規模な空間演出、音楽と一体化したスペクタクルは、演劇ファン、ダンスファン、アートファンの方も必見です。壮麗な管弦楽と大合唱が織りなす見せ場の数々、主役のドラマティックソプラノが圧倒的存在感で支配する壮大な宮廷絵巻『トゥーランドット』は、オペラの祭典にこそふさわしい大スペクタクル。本プロジェクトの総合プロデュースとして陣頭指揮を執る大野和士が指揮台に立ち、オーケストラピットには、大野が音楽監督を務めるバルセロナ交響楽団が入ります。テオリン、ウィルソンをはじめとする世界的キャストと、日本を代表する歌手陣が集結するのも、オペラファンには見逃せないポイントです。

<資料・写真のご請求、ご取材のお問い合わせ>

新国立劇場 制作部オペラ 広報担当 高梨木綿子

Tel:03-5352-5733/Fax:03-5352-5709/E-Mail: takanashi_y2525@nntt.jac.go.jp

2020 年に向け大型オペラを 2 年連続上演する＜オペラ夏の祭典＞

オペラ夏の祭典 2019-20Japan⇄Tokyo⇄World は、新国立劇場と東京文化会館が 2020 年に向けて、各地の劇場と連携して 2 年に渡り展開するオペラプロジェクトです。総合プロデュースは東京都の芸術文化評議員も務める大野和士。「五輪にちなんでヨーロッパ、アジア、北米、南米、南アフリカ五大大陸のオペラを」との大野の発案から、初年の 2019 年はアジアが舞台の『トゥーランドット』（プッチーニ）を、2020 年夏にはワーグナーの祝祭的作品『ニュルンベルクのマイスタージンガー』を上演します。『トゥーランドット』は東京文化会館、新国立劇場で上演後、びわ湖ホール、札幌文化芸術劇場 hitaru でも上演。『ニュルンベルクのマイスタージンガー』は兵庫県立芸術文化センターでも上演される予定です。東京都の文化施設である東京文化会館と新国立劇場が共同制作を行うのは史上初。日本のオペラ界が総力を挙げ、世界へ発信するオペラを創り上げます。

壮麗精緻な管弦楽と人民の大合唱が織りなす見せ場の数々、場を支配する主役のドラマティックソプラノと強靱なテノールの対決、プッチーニならではの可憐なソプラノ、謎解きの緊張感と愛による解放と、オペラならではのカタルシスに満ちた壮大な宮廷絵巻『トゥーランドット』は、オペラの祭典にこそふさわしいスペクタクル。何といても有名なカラフのアリア「誰も寝てはならぬ」は、トリノ五輪で荒川静香が金メダルを獲得した曲でもあります。ほかに、カラフの「泣きなリユー」、トゥーランドットの「この御殿の中で」、そしてリユーの「氷のような姫君の心も」と、プッチーニならではの胸揺さぶるアリアが続き、オペラの醍醐味を存分に味わっていただける作品です。

伝説的前衛集団ラ・フーラ・デルス・バウスのオリエが演出する大スペクタクル

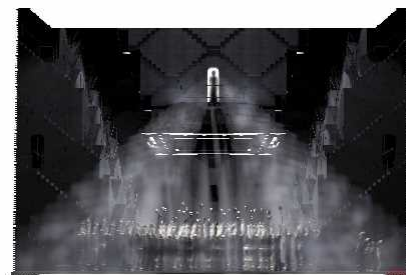
『トゥーランドット』の演出に招くのは、スペインの前衛的パフォーマンス集団ラ・フーラ・デルス・バウス La Fura dels Baus の 6 人の芸術監督のひとりアレックス・オリエ。大規模な野外イベントや演劇など広い分野で活動している演出家です。同カンパニーのカルルス・パドリッサと“地中海、オリンピックの海”をテーマに共同演出をした 1992 年のバルセロナ・オリンピックの開会式は、クライマックスで聖火を灯した弓を 70 メートル先の聖火台に向かって放ち見事に点火させた演出で、史上最も劇的なオリンピック開会式と語り継がれています。

オリエは近年オペラの演出で特に活躍し、ザルツブルク音楽祭、ウィーン芸術週間、パリ・オペラ座、モネ劇場、ミラノ・スカラ座など世界の歌劇場で話題作を発表しています。大野はオリエとはリヨン歌劇場で、2004 年の『さまよえるオランダ人』、13 年の『期待』／『囚われ人』で新演出公演に取り組んでおり、オリエの大規模なセットを用いたスペクタクルや、内面を視覚的に掘り下げていく手法と、音楽から湧き出す見事なイメージに着目、招聘を決めました。大野芸術監督は新国立劇場において、旬の演出家によるワールド・プレミア公演をここで制作し世界に発信すること、さらにそのプロダクションを劇場の財産として展開することを自らの大きな目標としており、『トゥーランドット』はまさに、世界的話題作として注目されています。そして大野監督が日本のオペラファンにぜひ紹介したいという、オリエならではの音楽と一体となってカタルシスをもたらす空間演出——演劇、ダンスファン、アートファンの方々も必見の大スペクタクルにご期待ください。

『トゥーランドット』演出家からのメッセージ

『トゥーランドット』の演出に寄せ、アレックス・オリエは次のようにメッセージを寄せています。

「特定の概念にとらわれたくないと思っていますが、魅力を感じているものはあります。それはカラフがトゥーランドット的美貌ではなく、権力に惹かれていく様子を見せることです。物語を変えるのではなく、この作品の価値観を見直すことを提案するということです。一方で大都会東京のようなメガロポリスを連想させる美的要素を凝縮したいと思っています。東京のような都市が呼び起こすイメージの数々は『トゥーランドット』のような幻想的な物語を作り上げるのに適しています。また、時代を超えた、または未来的な雰囲気になりたいと思っています。『トゥーランドット』への私の情熱はプッチーニ作品の演劇的要素に対するものです。『蝶々夫人』、『ラ・ボエーム』に続き、私にとって3つ目のプッチーニ作品を演出することになります。最初の2作品はとても現実的なものですが、『トゥーランドット』は物語、ファンタジーのようです。3作品とも脚本がよく書かれていて、物語の構成がいい。プッチーニは、人間の感情を見事に表現し、効果的に音楽と結びつけます。プッチーニの作品には多くのヒット曲が含まれています。例えば“Nessun dorma～誰も寝てはならぬ”。また、『トゥーランドット』はプッチーニが未完成のまま残した作品です。結末を記したメモだけを残しました。通常舞台で演じられる結末と異なるものを考えるということにワクワクします。」



「トゥーランドット」セットデザイン

バルセロナ交響楽団が新国立劇場のオーケストラピットに。国際的キャストが集結。

『トゥーランドット』でタクトを執るのは、「オペラ夏の祭典」プロジェクトの総合プロデュースとして陣頭指揮に当たる大野和士。管弦楽は大野が音楽監督を務めるバルセロナ交響楽団が務めます。海外から招聘するオーケストラが新国立劇場のオーケストラピットに入るのも史上初のこととなります。バルセロナ交響楽団は 24 年ぶりの来日、大野と固い絆で結ばれた、スペインを代表するオーケストラの演奏にも大きな注目が集まっています。トゥーランドット役はイレーネ・テオリン、ジェニファー・ウィルソンの 2 人の大ソプラノを迎え、対するカラフには躍進中のテオドール・イリンカイとデヴィッド・ポメロイが登場します。いずれもリユー役で大評判を取っている国内最人気のソプラノ中村恵理、砂川涼子の競演、さらに妻屋秀和ら日本を代表する歌手陣が集結するのも、オペラファンには見逃せないポイントです。合唱は新国立劇場合唱団、藤原歌劇団合唱部、びわ湖ホール声楽アンサンブルが合同で当たり、音楽的にも大スペクタクルを展開します。

<「トゥーランドット」あらすじ>

【第1幕】古代の北京。戦いに敗れ、女奴隷のリューとともに放浪中の老王ティムールは、息子の王子カラフと再会し、無事を喜び合う。皇女トゥーランドットが無言で姿を見せ、人々はひれ伏す。カラフは皇女の美しさに魅せられ、3つの謎を解き明かせば彼女が自分のものになると知り、謎に挑戦する。

【第2幕】3人の大臣が、皇女のせいで命を落とした異国の王子たちを思い返す。宮殿前の広場に人々が集まり、トゥーランドットが「謎が解けなければ死をもって報いる」と告げる。しかし、カラフは全ての謎を見事に解き明かす。狼狽する皇女に、カラフは自分の名を謎として与える。

【第3幕】皇女の命で人々は一睡もせずに異国の王子の名前を調べている。カラフが自らの決意をアリア〈誰も寝てはならぬ〉で歌い上げる。ティムールとリューが捕えられる。リューは「若者の名前は自分だけが知る」と訴えた後、自害する。人々が去った後、カラフは皇女に愛を語り、口づけをする。心を開いたトゥーランドットは、カラフの名を「愛」とであると叫ぶ。

<主要キャスト・スタッフプロフィール>

【指揮】大野和士

Conductor : ONO Kazushi

東京生まれ。東京藝術大学卒。ピアノ、作曲を安藤久義氏、指揮を遠藤雅古氏に師事。バイエルン州立歌劇場にてサヴァリッシュ、パタネー両氏に師事。1987年イタリアのトスカニーニ国際指揮者コンクール優勝。以後、世界各地でオペラ公演及びシンフォニーコンサートに客演で聴衆を魅了し続けている。90～96年ザグレブ・フィル音楽監督。96～2002年ドイツ、バーデン州立歌劇場音楽総監督。92～99年、東京フィル常任指揮者を経て、現在同楽団桂冠指揮者。02～08年ベルギー王立歌劇場（モネ劇場）音楽監督。12～15年アルトゥーロ・トスカニーニ・フィル首席客演指揮者、08～17年フランス国立リヨン歌劇場首席指揮者を歴任。15年から東京都交響楽団、バルセロナ交響楽団音楽監督。オペラでは07年6月にミラノ・スカラ座デビュー後、メトロポリタン歌劇場、パリ・オペラ座、バイエルン州立歌劇場、グライントボーン音楽祭、エクサンプロヴァンス音楽祭などへ出演。渡邊暁雄音楽基金音楽賞、芸術選奨文部大臣新人賞、出光音楽賞、齋藤秀雄メモリアル基金賞、エクソンモービル音楽賞、サントリー音楽賞、日本芸術院賞ならびに恩賜賞、朝日賞など受賞多数。紫綬褒章受章。文化功労者。17年5月、大野和士が率いたリヨン歌劇場はインターナショナル・オペラ・アワードで「最優秀オペラハウス2017」を獲得。6月にはフランス政府より芸術文化勲章オフィシエを受勲。同時にリヨン市特別メダルが授与された。18年9月より新国立劇場オペラ芸術監督。



【演出】アレックス・オリエ

Production : Àlex OLLÉ

バルセロナ生まれ。パフォーマンス集団ラ・フーラ・デルス・パウスの6人の芸術監督の一人で、同カンパニーは世界的な評価を確立した。カルルス・パドリッサと共同演出したバルセロナ・オリンピック開会式をはじめとする大規模イベントや、演劇、映画と多くの分野で活動している。近年ではオペラの演出で特に活躍し、ザルツブルク音楽祭、ウィーン芸術週間、マドリッド王立劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、パリ・オペラ座、ブリュッセル・モネ劇場、英国ロイヤルオペラ、イングリッシュ・ナショナル・オペラ、ザクセン州立歌劇場、ルールトリエンナーレ、ネザール・オペラ、ミラノ・スカラ座、ローマ歌劇場、オーストラリア・オペラなど世界中で活躍。『魔笛』『ノルマ』『仮面舞踏会』『イル・トロヴァトーレ』『ファウストの劫罰』『トリスタンとイゾルデ』『さまよえるオランダ人』『ペレアスとメリザンド』『ラ・ボエーム』『蝶々夫人』『青ひげ公の城』『消えた男の日記』『マハゴニー市の興亡』『火刑台上のジャンヌ・ダルク』など幅広い作品を手掛けている。新国立劇場初登場。



【トゥーランドット(7/18,20,22)】: イレーネ・テオリン

Turandot : Irène THEORIN

現代を代表するドラマティックソプラノの一人として世界中で活躍している。ミラノ・スカラ座、メトロポリタン歌劇場、英国ロイヤルオペラ、ベルリン州立歌劇場、ウィーン国立歌劇場、ザルツブルク音楽祭、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、ザクセン州立歌劇場、バイロイト音楽祭、バルセロナ・リセウ大劇場、ブリュッセル・モネ劇場、サンフランシスコ・オペラ、ローマ歌劇場など一流歌劇場、音楽祭に出演している。特にドイツ・オペラのドラマティックな役を得意とし『ニーベルングの指環』ブリュンヒルデ、『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、『エレクトラ』タイトルロール、『影のない女』バラクの妻などで活躍している。トゥーランドット役も得意とし、英国ロイヤルオペラ、サンフランシスコ・オペラ、バイエルン州立歌劇場、メトロポリタン歌劇場など多くの劇場で演じている。新国立劇場には2008年『トゥーランドット』タイトルロール、10年『ジークフリート』『神々の黄昏』ブリュンヒルデ、11年『トリスタンとイゾルデ』イゾルデ、16年『ワルキューレ』ブリュンヒルデに出演している。



【トゥーランドット(7/21)】: ジェニファー・ウィルソン

Turandot : Jennifer WILSON

アメリカ生まれ。2002年のコネチカット・オペラ『トゥーランドット』タイトルロールでオペラデビュー、同役ではその後もヒューストン・グラント・オペラ、サンタフェ・オペラ、英国ロイヤルオペラ、メトロポリタン歌劇場、バイエルン州立歌劇場などに出演している。また、ワーグナーを得意とし、『ニーベルングの指環』ブリュンヒルデではDVDで発売されているヴァレンシア歌劇場のほかフィレンツェ歌劇場に、『ワルキューレ』ではライプツィヒ歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、また『トリスタンとイゾルデ』イゾルデではシカゴ・リリック・オペラ、バルセロナ・リセウ大劇場など、『さまよえるオランダ人』ゼンタでワシントン・ナショナル・オペラ、ウィーン国立歌劇場などに出演している。『フィデリオ』レオノーレ、『影のない女』バラクの妻、『ナブッコ』アビガイッレ、『アイダ』タイトルロールなどもレパートリーとしている。新国立劇場へは2012年『さまよえるオランダ人』ゼンタで出演。



【カラフ(7/18,20,22)】テオドル・イリンカイ

Calaf : Teodor ILINCAI

ルーマニア生まれ。オーボエ、ビザンチン音楽、音楽教育を学んだ後、声楽に転向。2008年にブカレストのルーマニア国立歌劇場にデビューして注目を集め、以後国際的に活躍している。レパートリーには『マクベス』マクダフ、『椿姫』アルフレード、『ドン・カルロ』タイトルロール、『ラ・ボエーム』ロドルフォ、『蝶々夫人』ピンカートン、『トスカ』カヴァラドッシ、『ロメオとジュリエット』ロメオ、『エウゲニ・オネーギン』レンスキー、『カヴァレリア・ルスティカーナ』トゥリッドゥなどがあり、ウィーン国立歌劇場、バイエルン州立歌劇場、パリ・オペラ座、英国ロイヤルオペラ、ザクセン州立歌劇場、ハンブルク州立歌劇場、ベルリン・ドイツ・オペラ、ライン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、モネ劇場などで活躍している。近年ではドラマティックな役柄にも進出し、『イル・トロヴァトーレ』マンリーコ、『カルメン』ドン・ホセ、『トゥーランドット』カラフなどが予定されている。数々のコンクールで入賞しているほか、ルーマニア騎士章を授けられているほか、詩人としても高い評価を得ている。新国立劇場初登場。



【カラフ(7/21)デヴィッド・ポメロイ**Calaf : David POMEROY**

カナダ出身のテノール。2009年に『ホフマン物語』タイトルロールでメトロポリタン歌劇場にデビュー。カナディアン・オペラ・カンパニー、バンクーバー・オペラ、カルガリー・オペラ、モントリオール・オペラ、マニトバ・オペラ、ニューヨーク・シティ・オペラ、メトロポリタン歌劇場、フランクフルト歌劇場、シュトゥットガルト州立劇場などで『ファウスト』タイトルロール、『カルメン』ドン・ホセ、『椿姫』アルフレード、『トスカ』カヴァラドッシ、『蝶々夫人』ピンカートン、『死の都』パウルなどに出演。最近では、エドモントン・オペラとカルガリー・オペラで『トゥーランドット』カラフ、ケルン歌劇場『フィデリオ』フロレスタン、『タンホイザー』タイトルロール、シアトル・オペラ『アイダ』ラダメス、ブレゲンツ音楽祭『カルメン』ドン・ホセ、ヴァンクーバー交響楽団『ピーター・グライムズ』演奏会形式のタイトルロールなどに出演している。今シーズンはニューオーリンズ・オペラ、サンパウロ・テアトロ・ムニシパル『トゥーランドット』カラフ、リモージュ・オペラ『死の都』パウル、バンクーバー・オペラ『ファウスト』タイトルロール、シュトゥットガルト州立劇場『ナクソス島のアリアドネ』パッカスなどに出演。新国立劇場初登場。

**【リユー(7/18,20,22) : 中村恵理****Liù: NAKAMURA Eri**

大阪音楽大学、同大学院修了。新国立劇場オペラ研修所第5期修了。08年英国ロイヤルオペラにデビュー。翌年、同劇場の『カプレーティ家とモンテッキ家』にネレプレコの代役として出演し、一躍脚光を浴びる。そののち、カーディフ国際音楽コンクールにて、歌唱賞・オーケストラ賞の両部門で本選進出。10～16年、バイエルン州立歌劇場のソリストとして専属契約。『フィガロの結婚』スザンナ役でデビュー後、ケント・ナガノ、キリル・ペトレンコ、大野和士らの指揮のもと、『魔笛』『ホフマン物語』『ヘンゼルとグレーテル』等に主要キャストとして出演。その他、ベルリン・ドイツ・オペラ、ザルツブルク州立劇場など客演多数。16年11月には『チェネレントラ』クロリダ役でウィーン国立歌劇場にデビューするなど活躍の場を広げている。20年4月にはフィラデルフィア・オペラ『蝶々夫人』タイトルロールに出演予定。12年度アリオン賞、15年度芸術選奨文部科学大臣新人賞、17年第47回JXTG音楽賞洋楽部門奨励賞受賞。大阪音楽大学客員准教授。新国立劇場では『フィガロの結婚』バルバリーナ(03、05年)、スザンナ(07、17年)、06年『イデメネオ』イーリア、07年『ファルスタッフ』ナンネッタなど出演多数。

**【リユー(7/21) : 砂川涼子****Liù: SUNAKAWA Ryoko**

武蔵野音楽大学首席卒業。同大学院修了。第69回日本音楽コンクール第1位ならびに海外派遣特別賞受賞。第16回リッカルド・ザンドナイ国際音楽コンクールでザンドナイ賞など受賞多数。2001～04年江副育英会オペラ奨学生として渡伊。05年五島記念文化賞オペラ新人賞受賞。2000年新国立劇場小劇場オペラ『オルフェオとエウリディーチェ』エウリディーチェで本格的にデビュー。藤原歌劇団『ランスへの旅』コリンナ、『ラ・ボエーム』ミミ、『ドン・パスクワレ』ノリーナ、『フィガロの結婚』伯爵夫人、日生劇場『カプレーティ家とモンテッキ家』ジュリエッタ、びわ湖ホール『死の都』マリエッタ、『椿姫』ヴィオレッタなどに出演を重ね、日本を代表するソプラノの一人として活躍中。今年1月には藤原歌劇団『ラ・トラヴィアータ』ヴィオレッタに出演した。新国立劇場では『トゥーランドット』リユー、『ドン・ジョヴァンニ』ツェルリーナ、『カルメン』ミカエラ、『ホフマン物語』アントニア、『魔笛』パミーナ、『ウェルテル』ソフィーなどに出演。18/19シーズンは『カルメン』ミカエラ、『ジャンニ・スキッキ』ラウレッタにも出演した。武蔵野音楽大学非常勤講師。藤原歌劇団団員。

**【ティムール(7/18,20,22) : リッカルド・ザネッラート****Timur: Riccardo ZANELATO**

イタリア生まれ。重要なバスの役で常に名前が上がる歌手の一人である。リッカルド・ムーティによりローマ歌劇場に定期的に招かれているほか、ミラノ・スカラ座、トリノ王立歌劇場、ヴェローナ野外音楽祭、パレルモ・マッシモ歌劇場、パルマ・ヴェルディ音楽祭、ヴァレンシア歌劇場、バルセロナ・リセウ大劇場、ネザーランド・オペラ、ペーザロ・ロッシーニ・フェスティバル、ナポリ・サンカルロ歌劇場、チューリヒ歌劇場、フランダース・オペラ、ザルツブルク音楽祭などに出演、『モイーズとファラオン』モーゼ、『ナブッコ』ザッカーリア、『シモン・ボッカネグラ』ヤコボ・フィエスコ、『アッティラ』タイトルロール、『アイダ』ランフィス、『マクベス』バンクォー、『ドン・カルロ』フィリップポ二世、『アンナ・ボレーナ』エンリーコ、『ラ・ボエーム』コッリーネなどをレパートリーとしている。コンサートでも活躍し、特にヴェルディ『レクイエム』では世界各地に出演、多くの著名な指揮者と共演している。新国立劇場初登場。

**【ティムール(7/21) : 妻屋秀和****Timur: TSUMAYA Hidekazu**

東京藝術大学卒業、同大学大学院オペラ科修了。1994～2001年ライプツィヒ歌劇場、02年～11年ワイマールのドイツ国民劇場専属歌手。これまでにベルリン・ドイツ・オペラ、ベルリン州立歌劇場、ライン・ドイツ・オペラ、スコティッシュ・オペラなどに出演。欧州、日本でモーツァルト、ロッシーニ、ヴェルディ、プッチーニ、ワーグナー、R.シュトラウス等のオペラの主要な役を80役以上演じており、新国立劇場では『ラ・ボエーム』コッリーネ、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長、『セビリアの理髪師』ドン・バジリオ、『アイダ』ランフィス、『ナブッコ』ベルの祭司長、『夜叉ヶ池』鉦蔵、『リゴレット』スパラフチーレ、『ヴォツェック』医者、『アラベッラ』ヴァルトナー伯爵、『ドン・カルロ』宗教裁判長、『マノン・レスコー』ジェロント、『ばらの騎士』警部、『ラインの黄金』ファフナー、ファーゾルト、『ファルスタッフ』ピストーラ、『魔笛』ザラストロ、『ルチア』ライモンドなど出演多数。2017/18シーズンは『アイダ』ランフィス、『フィデリオ』ロッコに、2018/19シーズンは『ファルスタッフ』ピストーラ、『タンホイザー』領主ヘルマン、『ドン・ジョヴァンニ』騎士長にも出演。二期会会員。

**【管弦楽 : バルセロナ交響楽団]****Orchestra: Barcelona Symphony Orchestra**

1944年創立。2015年9月から大野和士が音楽監督を務めている。70年以上の歴史を通して、世界的に著名なソリストと共にファリャ、ビゼー、ロドリゴらの作品に焦点を当てた録音をリリースした。ツアーも重要なプロジェクトのひとつであり、カーネギーホールなど世界的に著名なホールへの客演やロイヤル・アルバート・ホールで開催されるBBCプロムスなど国際的な音楽祭に出演している。リセウ大劇場のオペラ公演にも定期的に参加しており、近年ではプロコフィエフ『賭博師』、R.シュトラウス『ダフネ』、モーツァルト『魔笛』、ワーグナー『リエンツィ』、プッチーニ『外套』などに出演した。クラシック音楽から現代音楽まですべてのジャンル、とりわけカタルーニャ地方の作曲家の作品の普及に努めている。2019年の来日は実に24年ぶりとなる。



文化庁委託事業「2019年度戦略的芸術文化創造推進事業」
 新国立劇場 2018/2019シーズン オペラ夏の祭典2019-20 Japan↔Tokyo↔World
 トゥーランドット
 Giacomo Puccini / Turandot
 全3幕<イタリア語上演/日本語及び英語字幕付>

【公演日程】2019年7月18日(木)18:30/20日(土)14:00/21日(日)14:00/22日(月)14:00

【会場】新国立劇場 オペラパレス

【チケット料金】S:32,400円・A:27,000円・B:19,440円・C:12,960円・D:6,480円・Z:1,620円

【前売開始】2019年3月2日(土)

※前売券は全席完売となりましたため、クラブ・ジ・アトレ会員向けのウェイトニングサービスを実施予定です。ウェイトニングサービス終了後にキャンセルが出た場合は、一般発売として販売いたします。詳細は、新国立劇場ウェブサイトをご覧ください。

指揮……………大野和士
 Conductor ONO Kazushi
 演出……………アレックス・オリエ
 Production Àlex OLLÉ
 美術……………アルフォンス・フローレス
 Set Design Alfons FLORES
 衣裳……………リュック・カステイス
 Costume Design Lluc CASTELLS
 照明……………ウルス・シェーネバウム
 Lighting Design Urs SCHÖNEBAUM
 演出補…………スサナ・ゴメス
 Associate Director Susana GÓMEZ
 舞台監督…………菅原多敢弘
 Stage Manager SUGAHARA Takahiro

	【18・20・22日】	【21日】
トゥーランドット……………	イレネ・テオリン	ジェニファー・ウィルソン
Turandot	Irène THEORIN	Jennifer WILSON
カラフ……………	テオドール・イリンカイ	デヴィッド・ポメロイ
Calaf	Teodor ILINCĂI	David POMEROY
リユー……………	中村恵理	砂川涼子
Liù	NAKAMURA Eri	SUNAKAWA Ryoko
ティムール……………	リッカルド・ザネッラート	妻屋秀和
Timur	Riccardo ZANELLATO	TSUMAYA Hidekazu
アルトゥム皇帝……………	持木 弘	持木 弘
L'imperatore Altoum	MOCHIKI Hiroshi	MOCHIKI Hiroshi
ピン……………	榊 貴志	森口賢二
Ping	MASU Takashi	MORIGUCHI Kenji
パン……………	与儀 巧	秋谷直之
Pang	YOGI Takumi	AKITANI Naoyuki
ポン……………	村上敏明	糸賀修平
Pong	MURAKAMI Toshiaki	ITOGA Shuhei
官吏……………	豊嶋祐壹	成田 眞
Un mandarino	TOYOSHIMA Yuichi	NARITA Makoto

合唱指揮……………三澤洋史
 Chorus Master MISAWA Hirofumi
 合唱……………新国立劇場合唱団／藤原歌劇団合唱部／びわ湖ホール声楽アンサンブル
 Chorus New National Theatre Chorus / Fujiwara Opera Chorus Group / BIWAKO HALL Vocal Ensemble
 児童合唱……………TOKYO FM 少年合唱団
 Children Chorus TOKYO FM Boys Choir
 管弦楽……………バルセロナ交響楽団
 Orchestra Barcelona Symphony Orchestra

芸術監督……………大野和士
 Artistic Director ONO Kazushi

制作……………新国立劇場／東京文化会館
 Produced by New National Theatre, Tokyo / Tokyo Bunka Kaikan

公演情報 WEB サイト <https://www.nntt.jac.go.jp/opera/turandot/>

【チケットのご予約・お問い合わせ】 新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00~18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

- * Z席 1,620 円: 公演当日朝 10 時より、新国立劇場 Web ボックスオフィスほかで販売。1人1枚。電話予約不可。
- * 当日学生割引(50%)、ジュニア割引、高齢者割引、障害者割引、学生割引など各種割引あり。* 未就学児入場不可。

※前売券は全席完売となりましたため、クラブ・ジ・アトレ会員向けのウェーティングサービスを実施予定です。ウェーティングサービス終了後にキャンセルが出た場合は、一般発売として販売いたします。詳細は、新国立劇場ウェブサイトをご覧ください。

大野和士のオペラ玉手箱 with Singers Vol.2 『トゥーランドット』 開催！

大野和士オペラ芸術監督がピアノを弾きながら、オペラ作品についてレクチャーする「オペラ玉手箱」シリーズ。昨年度大好評をいただいた『魔笛』に続き、『トゥーランドット』で開催します。歌手の歌唱を交えながら、大野がユーモアたっぷりに『トゥーランドット』の魅力をご紹介します。

日時: 2019 年 6 月 29 日(土) 14:00 開演(13:30 開場) ※終演は 16:00 頃を予定

会場: 新国立劇場 オペラパレス

出演: 大野和士(ピアノ、お話) ほか(出演歌手については後日発表します)

料金: 1 階指定席 2,160 円 ※各種割引はございません。

2 階自由席(25 歳以下の方のみ) 500 円 (U25 優待メンバーズからのお申込となります)

発売日: 2019 年 5 月 8 日(水) 10:00~

チケット取り扱い: 新国立劇場ボックスオフィス 窓口・電話 03-5352-9999

新国立劇場 Web ボックスオフィス <http://nntt.pia.jp/>

チケットぴあ電話 0570-02-9999(Pコード 149-043)

※25 歳以下の方は、U25 優待メンバーズページよりご登録の上、お申込みください。 <https://www.e-get.jp/nntt/pt/>

大野和士のオペラ玉手箱 Vol.1『魔笛』より

『トゥーランドット』全国での公演日程



東京文化会館: 2019 年 7 月 12 日(金)、13 日(土)、14 日(日)

SS席¥32,400/S席¥27,000/A席¥22,680/B席¥18,360/C席¥14,040

D席¥9,720/E席¥5,400/F席¥3,240/U25席¥3,240

Tel 03-5685-0650 <https://www.t-bunka.jp/>

新国立劇場: 2019 年 7 月 18 日(木)、20 日(土)、21 日(日)、22 日(月)

S席¥32,400/A席¥27,000/B席¥19,440/C席¥12,960/D席¥6,480

Z席¥1,620(当日のみ)

Tel 03-5352-9999 <https://www.nntt.jac.go.jp/>

びわ湖ホール: 2019 年 7 月 27 日(土)、28 日(日)

SS席¥22,000/S席¥18,000/A席¥15,000/B席¥13,000/C席¥10,000/

D席¥8,000/E席¥5,000/U30席 ¥3,000/U24席¥2,000

Tel 077-523-7136 <https://www.biwako-hall.or.jp/>

札幌文化芸術劇場: 2019 年 8 月 3 日(土)、4 日(日)

S席¥20,000/A席¥16,000/B席¥12,000/C席¥10,000/D席¥6,000/

U25席(D席)¥3,000

Tel 0570-00-3871 <https://www.sapporo-community-plaza.jp/>「オペラ夏の祭典2019-20 Japan⇄Tokyo⇄World」特設サイト <https://opera-festival.com/>